

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	BD+Rit 変法
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	LPL/WM
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	LPL-002
登録日・更新日	2017年11月28日 登録 2023年4月25日 更新
削除日	
出典	Blood. 2013 122 :3276-3282
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

1サイクル目						
	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ボルテゾミブ (ボルテゾミブ注射用)	3mg	1.3 mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(皮下注)	-	day1,4,8,11
	生理食塩液	20 mL				
2サイクル目以降						
No.2	リツキシマブ(遺伝子組換え) (リツキシマブBS点滴静注)	100mg, 500mg	375 mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他()	*	day1
	生理食塩液	500 mL				
No.3	ボルテゾミブ (ボルテゾミブ注射用)	3mg	1.3 mg/m ²	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(皮下注)	-	day1,8,15,22
	生理食塩液	20 mL				
No.4	デキサメタゾン (デカドロン錠)	4mg	40mg/body	<input type="checkbox"/> IV <input type="checkbox"/> DIV <input type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input checked="" type="checkbox"/> その他(内服)	-	day1,8,15,22

1コースの期間 1サイクル目	21日
1コースの期間 2サイクル目以降	35日
投与間隔の短縮規定	<input type="checkbox"/> 短縮可能(日)・ <input checked="" type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【開始基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 好中球数>750/mm³、血小板数>50,000/mm³、クレアチニン・クリアランス(CrCl)>30 mL/min、T-Bil<2mg/dL、AST<100U/L ALT<150IU/L <p>◆ベルケイドの減量目安</p> <ul style="list-style-type: none"> 開始用量: 1.3mg/m² ステップ1(1段階減量): 1.0mg/m² ステップ2(2段階減量): 0.7mg/m² ステップ3: 投与中止
前投薬	<p>【リツキシマブ前投薬】</p> <p>アセトアミノフェン500mg+クロルフェニラミン注10mg+ファモチジン注20mg+ヒドロコルチゾン注100mg</p>
その他の注意事項	<p>* リツキシマブの投与方法は院内標準化に準拠する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯状疱疹・感染症の予防として、アシクロビル又はバラシクロビルおよび抗生剤(ST合剤等)を予防投与する。 ・全身状態を考慮してボルテゾミブは減量開始しても良い。 <p>B型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者(HBs抗原陰性、かつHBc抗体又はHBs抗体陽性)において、本剤の投与によりB型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎があらわれることがあるので、本剤投与に先立って肝炎ウイルス感染の有無を確認し、本剤投与前に適切な処置を行うこと。本剤の治療開始後及び治療終了後は、継続して肝機能検査や肝炎ウイルスマーカーのモニタリングを行うなど、B型肝炎ウイルスの再活性化の徴候や症状の発現に注意すること。</p>

記入者	伊勢崎竜也
確認者	竹内正美